

AGORA 2021-3

# 考工学

Nov. 15<sup>th</sup>, 2023

Core Members: 中、清水<sub>重</sub>、高木<sub>知</sub>、熊田、野々口、山下<sub>兼</sub>

# 「考工学」

## 研究者の動機

- ◆ ノートに記載されただけの失敗した(こぼれ落ちた)実験結果
- ◆ 遺産として扱われている古代建築物や遺品
- ◆ 忘れ去られた過去(ひと昔前)の技術や研究知見
- これらを拾い上げることで新しい視野が開けるのでは？

## 「考古学的な」研究アプローチ

研究分野の事情や開発された経緯、歴史的な統一性や連続性など、あらゆる先入観やイデオロギーを捨て、その事実そのものの意義、他との関係や派生を考察し、研究者自身が固有の研究対象を構築する

# 考工学の手法

- ▶ 「忘れ去られた技術」を発掘
  - ▶ 現在であるからこそ可能となる**知の枠組**（≡新しい価値）を創成
- ▶ 「枯れた技術」を発掘
  - ▶ ある分野で土着的なありふれた技術を分野横断的につなぎ合わせることで学際的な**知の枠組**を構築
- ▶ 「役に立たない技術」を発掘
  - ▶ 合目的的ではなく「美しさ（真・善・美）」の観点から独自の**知の枠組**を抽出

# 外部講師講演会

2022.11.09 開催

～忘れ去られた技術の発掘～

- ▶ 城一裕先生（九州大学）  
・・・メディア考古学
  - ▶ メディアの行方、アーカイブの行方
  - ▶ 実践することの重要性

2023.07.31 開催

～役に立たない技術の発掘～

- ▶ 中谷礼仁先生（早稲田大学）・・・建築史
  - ▶ 演習講義での取り組み「役に立たない機械」
  - ▶ 「美とは目的なき合目的性である」

2023.01.16 開催

～学際研究の実践～

- ▶ 磯部洋明先生（京都市立芸術大学）  
・・・宇宙物理学
  - ▶ 宇宙天気（スーパーフレア、オーロラ）
  - ▶ → 古文書の調査

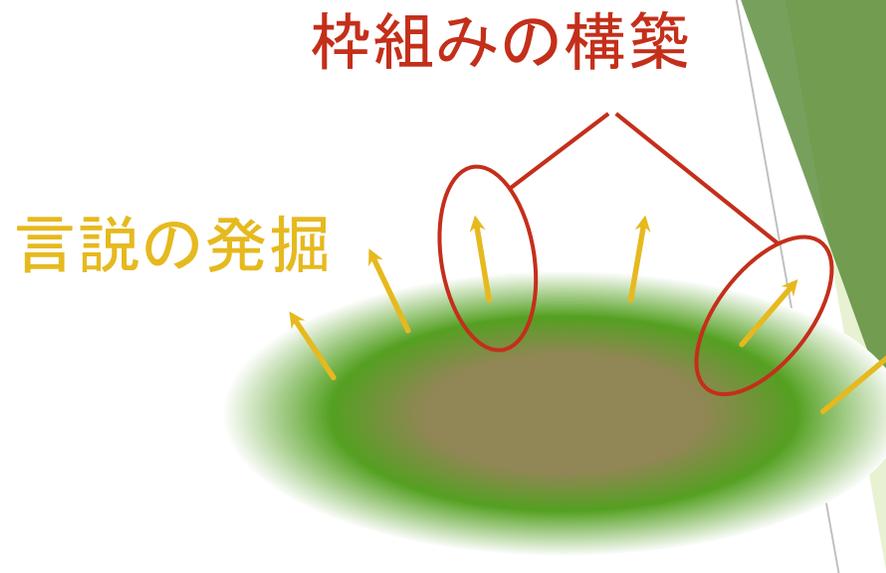
2024.01.29 開催予定

～枯れた技術の発掘～

- ▶ 松山桃世先生（東京大学）  
・・・パブリック・エンゲージメント
  - ▶ 科学コミュニケーションツール  
「秘密の研究道具箱」の実践

# ミシェル・フーコー

- ▶ 「知の考古学」 (1969)
  - ▶ 「言説」の発掘  
諸々の言説、すなわち「語られるもの」の集合を、それが存在するレベルにおいてのみで記述を試みる
- ▶ 「言葉と物」 (1966)
  - ▶ 「知の枠組」の構築  
(エピステーメー)  
物の秩序を認識するための知の枠組み



# グループ内勉強会

- ・ ・ ・ 各研究分野での考工学的研究アプローチに関する取り組みの紹介  
(2022.11.24)
  - ▶ 中先生 ・ ・ ・ 化学合成研究における「セレンディピティ」の重要性
  - ▶ 清水先生 ・ ・ ・ 建築遺産から抽出される「工学」
- (2023.03.27)
  - ▶ 野々口先生 ・ ・ ・ 発掘されたカーボン研究「炭素繊維の液化技術」
  - ▶ 熊田先生 ・ ・ ・ 研究室データベース「Lablogs」
- (2023.06.07)
  - ▶ 山下 ・ ・ ・ 自身の研究の考工学への照らし合わせ「“光・電子”の真偽」
- (2023.11.06)
  - ▶ 高木先生 ・ ・ ・ 最先端計算科学と「実験計画法」
- (2023.11.10)
  - ▶ 山下 ・ ・ ・ (外部発表) 「お寺で宇宙学」@ 浄慶寺